

第8章 自然環境

1. 概要

本市は、県北部中央の北総台地に位置しており、その地形は東部及び南部の台地と、北部及び西部の平地に大別されます。台地は、畑あるいは森林で、台地の周辺部はほとんどが森林でふちどられています。根本名川や印旛沼周辺の低地には水田が広がり、温暖な気候と豊かな自然・生物多様性に恵まれています。

しかしながら、近年、急激な都市化により身近な自然・生物多様性が減少しつつあります。

自然は、私たちの生活に潤いを与えてくれるばかりでなく、環境の保全、水資源のかん養を促し、野生生物の生息場所となるなど、地球上の全ての生命を育む母胎です。

生物多様性は、生物の豊かな個性とつながりのことです。地球上の生物は40億年という長い歴史の中でさまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生物が生まれました。生命は一つひとつに個性があり、全て直接・間接的に支えあって生きています。

市民が豊かな自然・生物多様性の中で水や緑、多様な生命に触れ合うことができるよう、自然環境の保全と創造に努めています。

2. 自然環境保全地域

千葉県では、千葉県自然環境保全条例に基づき、自然環境保全地域、郷土環境保全地域、緑地環境保全地域の3種類の保全地域を指定しています。本市では、公津地区の麻賀多神社の森、下総地区の小御門神社の森、大栄地区の大慈恩寺の森の3地域が郷土環境保全地域として指定されています。

表 2-8-1 保全地域の指定状況

地 域 名		面積(ha)	指定年月日
郷土環境 保全地域	麻賀多神社の森郷土環境保全地域	2.80	1979(昭和54)年 3月30日
	小御門神社の森郷土環境保全地域	1.81	1979(昭和54)年 4月 3日
	大慈恩寺の森郷土環境保全地域	3.01	1990(平成2)年 3月30日

3. 動植物生息調査

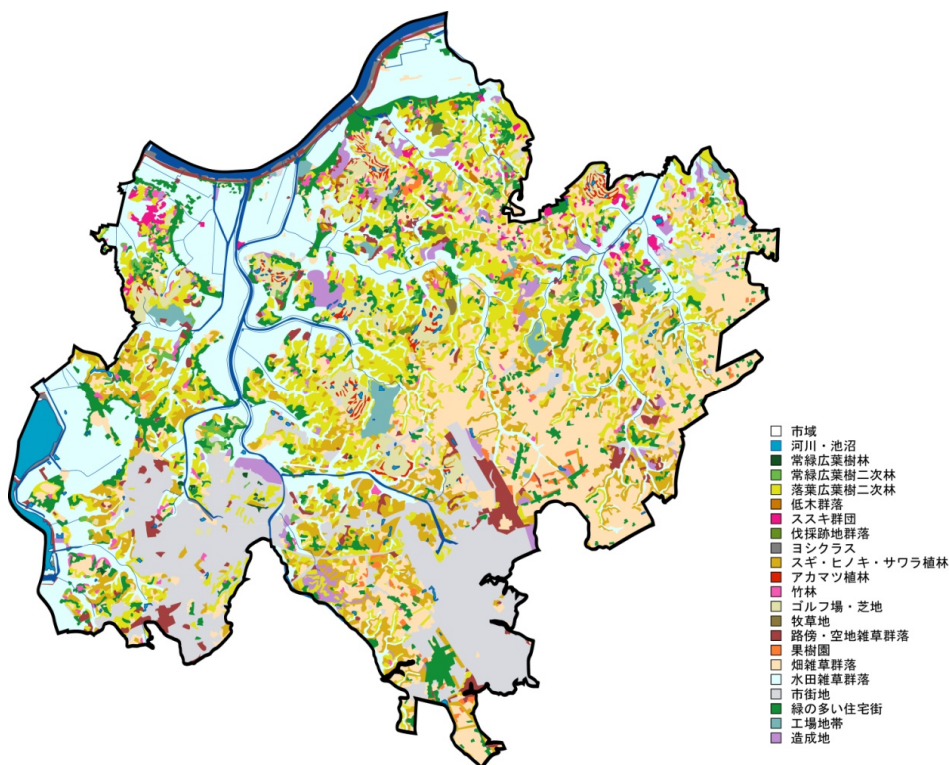
本市では、1993（平成 5）年度から 1994（平成 6）年度にかけて、市内の主要な水辺周辺の動植物生息調査（「第 1 次水辺編」）を、また 1995（平成 7）年度から 1996（平成 8）年度にかけて、市内陸域の動植物生息調査（「第 1 次陸域編」）を実施しました。その後、第 1 次動植物生息調査と同じ地点で、2002（平成 14）年度に「第 2 次水辺編」を、2003（平成 15）年度に「第 2 次陸域編」を実施しました。そして 2004（平成 16）年度には総合解析を行いました。さらに、2014（平成 26）年度から 2015（平成 27）年度にかけて、市内の陸域及び水域の動植物生息調査（「第 3 次調査」）を行いました。また、これまでの動植物生息調査で得られた自然環境データを基に、市域の自然環境の変化について整理・解析を行い、地域別の自然環境の評価を行いました。その結果、市内の河川及び池沼の周辺では、護岸工事等の影響を受けている地域が見受けられましたが、市全域で見ると動植物の確認種数が比較的多く、生物の多様性が保たれていることが確認できました。

(1) 植生

本市の気候帯は、暖温帯で、植生帯ではヤブツバキクラス域自然植生に属しています。

利根川、根木名川、大須賀川、印旛沼周辺の平地には田園が広がり、植生区分としては水田雑草群落が大部分を占めています。また河川流域の谷津斜面は、スギ・ヒノキの植林や、シイ・カシ林、コナラ等の斜面林が多く分布しています。

中央部から南東部にかけての台地部分は、畑として利用されている地域が多く、畑地雑草群落が広がっています。南西部には成田ニュータウンをはじめとする市街地が広がっており、市内各地には古くからある集落が緑の多い住宅地として点在しています。



資料 第 6 回（1999（平成 11）年度～2004（平成 16）年度）・第 7 回（2005（平成 17）年度～2015（平成 27）年度継続中）自然環境保全基礎調査（環境省自然環境局生物多様性センター）

図 2-8-1 成田市の植生図

(2) 地域別特性

動植物生息調査の結果、本市中心部に位置する尾羽根川流域、荒海川流域では、他の調査区域に比べ確認された種数が多く、豊かな自然環境が存在していると考えられます。なお、尾羽根川流域は、下総地域南部、大栄地域西部と隣接しており、周辺地域にも同様の自然環境が存在していると考えられます。

成田空港周辺域は、その多くを空港が占めており、コンクリート等で覆われている部分が多いため確認種数が少なくなっています。

河川、池沼の周辺では護岸等の人為的影響を受けた区域が多いものの、植物種、動物種は多く、多様な生物が生息しています。

また、本調査においては湧水地点の調査も行い、印旛沼と成田ニュータウンに挟まれた八代地区（印旛沼周辺域）に、湧水地点が多く分布することが確認されています。



図 2-8-2 調査区画図

表 2-8-2 動植物確認種数一覧

番号	ブロック名	植物			哺乳類			鳥類			両生類		
		1次	2次	3次	1次	2次	3次	1次	2次	3次	1次	2次	3次
No. 1	根本名川下流域	176	140	324	4	1	3	55	48	25	3	4	2
No. 2	根本名川中～下流域	145	133	238	2	1	2	39	47	22	2	4	3
No. 3	根本名川中流域	168	117	384	2	1	4	42	47	23	1	2	2
No. 4	根本名川上流域	141	156	391	2	3	1	39	37	22	5	5	2
No. 5	尾羽根川流域	230	275	389	3	3	3	39	47	25	4	5	2
No. 6	荒海川流域	196	179	392	5	1	3	32	47	16	2	5	1
No. 7	取香川流域	195	191	382	4	1	2	38	50	20	4	5	3
No. 8	成田空港周辺域	18	27	382	2	1	1	33	30	19	0	1	2
No. 9	十日川流域	121	175	349	6	4	3	48	53	29	2	3	3
No. 10	小橋川流域	171	167	389	2	3	4	40	47	21	3	4	2
No. 11	印旛沼周辺域	24	153	310	3	2	4	60	50	43	3	4	3
No. 12	江川流域	186	161	359	4	2	3	44	46	30	2	4	5
No. 13	根本名川下流域（旧下総町地域）	—	—	331	—	—	2	—	—	21	—	—	2
No. 14	尾羽根川流域上流（旧大栄町地域）	—	—	381	—	—	2	—	—	25	—	—	3
No. 15	尾羽根川流域下流（派川根本名川周辺）	—	—	359	—	—	3	—	—	32	—	—	2
No. 16	境川流域	—	—	381	—	—	3	—	—	20	—	—	2
No. 17	浄向川流域	—	—	349	—	—	3	—	—	34	—	—	3
No. 18	大須賀川流域（天昌寺川周辺）	—	—	395	—	—	7	—	—	33	—	—	3
No. 19	大須賀川流域（下田川周辺）	—	—	410	—	—	4	—	—	21	—	—	5
No. 20	大須賀川上流域	—	—	394	—	—	3	—	—	28	—	—	4
No. 21	大須賀川下流域	—	—	323	—	—	3	—	—	28	—	—	2
No. 22	栗山川流域	—	—	290	—	—	4	—	—	30	—	—	6
確認種数		496	512	929	7	8	8	108	93	72	6	6	6
調査全体の確認種数 （市域全体）		1, 024			11			119			6		

番号	ブロック名	爬虫類			昆虫類			底生生物			魚類		
		1次	2次	3次	1次	2次	3次	1次	2次	3次	1次	2次	3次
No. 1	根本名川下流域	2	5	2	152	168	131	4	6	2	8	11	4
No. 2	根本名川中～下流域	3	1	4	219	258	215	4	1	2	11	8	3
No. 3	根本名川中流域	3	3	3	241	190	205	13	5	11	10	11	8
No. 4	根本名川上流域	2	3	2	272	319	274	8	4	2	5	4	3
No. 5	尾羽根川流域	2	6	2	259	443	395	27	11	3	20	16	2
No. 6	荒海川流域	0	3	2	257	506	473	17	2	3	13	11	1
No. 7	取香川流域	2	3	2	283	312	230	1	1	3	6	3	4
No. 8	成田空港周辺域	1	0	1	213	199	194	0	0	3	0	0	0
No. 9	十日川流域	2	4	3	245	211	214	10	5	3	9	4	0
No. 10	小橋川流域	3	3	3	202	268	238	16	6	4	11	9	1
No. 11	印旛沼周辺域	1	6	2	98	186	211	1	2	4	6	7	1
No. 12	江川流域	1	1	3	232	236	246	9	4	6	7	3	2
No. 13	根本名川下流域（旧下総町地域）	—	—	2	—	—	120	—	—	3	—	—	0
No. 14	尾羽根川流域上流（旧大栄町地域）	—	—	2	—	—	205	—	—	4	—	—	4
No. 15	尾羽根川流域下流（派川根本名川周辺）	—	—	1	—	—	186	—	—	3	—	—	4
No. 16	境川流域	—	—	2	—	—	309	—	—	3	—	—	3
No. 17	浄向川流域	—	—	1	—	—	337	—	—	3	—	—	3
No. 18	大須賀川流域（天昌寺川周辺）	—	—	2	—	—	226	—	—	4	—	—	3
No. 19	大須賀川流域（下田川周辺）	—	—	1	—	—	276	—	—	3	—	—	3
No. 20	大須賀川上流域	—	—	2	—	—	309	—	—	3	—	—	4
No. 21	大須賀川下流域	—	—	4	—	—	300	—	—	3	—	—	1
No. 22	栗山川流域	—	—	2	—	—	195	—	—	5	—	—	0
確認種数		10	10	5	854	1, 202	1, 355	35	22	13	32	25	16
調査全体の確認種数 （市域全体）		12			1, 383			50			35		

※ 「—」は調査を実施していないブロック。

(3) 注目種

第3次動植物生息調査において確認された注目種は、表2-8-3及び表2-8-4に示すとおりです。

環境省の評価基準（環境省レッドリスト）における注目種は、植物12種、鳥類6種、両生類1種、昆虫類1種、貝類2種、魚類3種が確認されています。また、この他に、評価するだけの情報が不足している種（「情報不足DD」）として、コガムシ（昆虫類）が該当しています。

地域的希少性を有すると判断される千葉県の評価基準（千葉県レッドリスト）における注目種は、植物31種、哺乳類1種、鳥類25種、両生類4種、爬虫類3種、昆虫類14種、甲殻類1種、貝類2種、魚類5種が確認されています。

表2-8-3 成田市の注目種（環境省評価基準）

分類群	種数	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)
植 物	12 種	—	—	キンラン クマガイソウ ホソバオグルマ	エビネ ミクリ カワヂシャ ミゾコウジュ アサザ ウスゲチヨウジタデ ノウルシ タコノアシ ミズニラ
鳥 類	6 種	—	—	サシバ ハヤブサ	オオタカ チュウサギ ミサゴ ヨシゴイ
両生類	1 種	—	—	—	トウキョウダルマガエル
昆虫類	1 種	—	—	—	ギンイチモンジセセリ
貝 類	2 種	—	—	マシジミ	オオタニシ
魚 類	2 種	—	ホトケドジョウ	ミナミメダカ	ドジョウ

※ 環境省第レッドリスト(2019（平成31）年1月)

表 2-8-4 成田市の注目種（千葉県評価基準）

分類群	種数	消息不明・絶滅生物 (X)	最重要保護生物 (A)	重要保護生物 (B)	要保護生物 (C)	一般保護生物 (D)
植 物	31 種	—	1 種 アサザ	2 種 クマガイソウ ヤマジノホトトギス	12 種	16 種
哺乳類	1 種	—	—	—	—	1 種
鳥 類	25 種	—	4 種 ヨシゴイ サシバ イソシギ ハヤブサ	5 種 チュウサギ ミサゴ バン キセキレイ コサギ	8 種	8 種
両生類	4 種	—	1 種 ニホンアカガエル	1 種 トウキョウダルマガエル	1 種	1 種
爬虫類	3 種	—	—	1 種 ヒガシニホントカゲ	—	2 種
昆虫類	14 種	—	1 種 ハルゼミ	2 種 オオチャバネセセリ ホソバセセリ	6 種	5 種
甲殻類	1 種	—	—	—	1 種	—
貝 類	2 種	—	1 種 マシジミ	—	1 種	—
魚 類	5 種	—	—	2 種 ミナミメダカ カマツカ	2 種	1 種

※ 千葉県レッドデータブック植物・菌類編(2017（平成 29）年改訂版)、動物編(2019（平成 31）年改訂版)

(4) 外来種

第3次動植物生息調査において確認された外来種は、表2-8-5に示すとおりです。

植物は、アレチウリ、オオキンケイギク等、233種の外来種が確認されています。

動物について、哺乳類はハクビシン1種、鳥類はコジュケイ、ドバトの2種、両生類はウシガエル1種、爬虫類はアカミミガメ、クサガメの2種、昆虫類はセイヨウミツバチ、アオマツムシ等27種、底生生物はサカマキガイ、フロリダマミズヨコエビ、カワリヌマエビ属の3種、魚類はカダヤシ、オオクチバス、ブルーギル等の5種が外来種として確認されています。

確認された外来種のうち、アレチウリ、オオキンケイギク、ウシガエル、カダヤシ、オオクチバス、ブルーギルの6種は、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」の特定外来生物に指定されています。

市への特定外来生物に関する通報の件数は表2-8-6に示すとおりです。

オオキンケイギクやカミツキガメの通報が主なものとなっています。

表2-8-5 第3次動植物生息調査で確認された外来種の状況

	確認種数	外来種数	外来種率(%)
植 物	929	233	25.1
哺 乳 類	8	1	12.5
鳥 類	72	2	2.8
両 生 類	6	1	16.7
爬 虫 類	5	2	40.0
昆 虫 類	1,355	27	2.0
底生生物	13	3	23.1
魚 類	16	5	31.3

※ 外来種の判断根拠としては「外来種ハンドブック（日本生態学会，2003（平成15）年）」を使用。

表2-8-6 特定外来生物に関する通報件数

	全体件数	特定外来生物	その他
2018(H30)年度	17	7	10
2019(R1)年度	15	6	9